

川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンターが

「日本オープンイノベーション大賞・選考委員会特別賞」を受賞しました！

公益財団法人川崎市産業振興財団

理事長 三浦 淳

このたび、公益財団法人川崎市産業振興財団が運営するナノ医療イノベーションセンター(iCONM)のプロジェクト「体内病院が未来を変える～シックケア社会からスマートライフケア社会への変革を目指して～」が、内閣府による本年度の第3回日本オープンイノベーション大賞・選考委員会特別賞を受賞しました。

まずは、このプロジェクトに関わられた皆さま、ご支援をいただきました多くの方々に心から感謝と御礼を申し上げます。

プロジェクト統括の木村廣道先生、研究リーダーでセンター長の片岡一則先生、東京大学大学院工学系研究科の一木隆範教授はじめ研究者の先生方、このプロジェクトに参画いただいている様々な機関の皆さまの長年にわたる研究・社会実装に向けた取組に対して心から敬意を表させていただきます。

また、長年にわたり、ナノ医療イノベーションセンターが立地する先端的なライフサイエンス研究エリアであるキングスカイフロントの整備を進めてこられた川崎市の臨海部国際戦略本部を中心とした川崎市の皆さま、さらにはご支援をいただいた国や県、関係自治体など行政の方々にも感謝申し上げます。

さらには、エリアに立地する企業、研究機関、アカデミアの皆さん、周辺地域の市民の方々など、多くの皆さまのご尽力の賜物と心から御礼を申し上げたいと存じます。

このプロジェクトは、2045年までに、ウイルスサイズのスマートナノマシンが、体内を自律巡回し、24時間治療・診断を行うという「体内病院」システムを構築し、「いつでもどこでも誰もが心身や経済負担がなく、社会的負荷の大きい疾患から解放されことで健康になっていく社会」の実現を目指しています。

川崎市産業振興財団のナノ医療イノベーションセンターが中核となり、計25機関(6大学、12企業、5研究機関、2自治体:2020年12月現在)が参加し、川崎市のバックアップの下、産官学のアンダー・ザ・ワンルーフの研究体制を構築し、取組を進めてきており、投稿論文、特許出願、ライセンス取得、さらにはベンチャー企業の設立などに多くの成果をあげつつあり、このたびこうした取組が評価され受賞に至ったものと考えております。

現在も、ナノ医療イノベーションセンターでは、超高齢社会の大きな課題である難治性のがんや認知症、変形性関節症などの研究、また、診断デバイスの開発、さらには、今後の新たなウイルスの襲来に備えて、東京都医学総合研究所と協力し、短期間で効率よく生産できるワクチンの開発に向けた研究も進めています。

今回の受賞を励みとして、市民の誇りとなる、世界で最もイノベーティブな拠点を目指し、スマートライフケア社会の実現を図る取組を進めてまいりますので、皆さまの引き続きのご支援をお願い申し上げたいと存じます。

以上